

令和6年度 小樽支部活動報告

小樽市学校体育研究会 事務局長

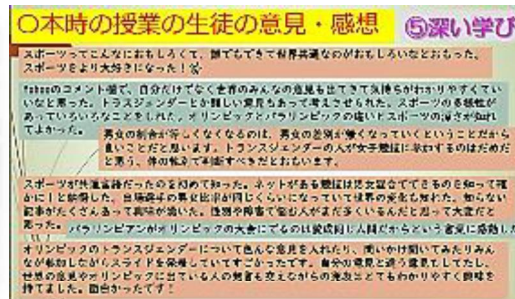
宮崎貴宣（小樽市立長橋中学校）

1 本年度の研究活動の概要

学習指導要領では、小学校・中学校に共通して「運動に親しむ資質や能力」「健康の保持増進」「体力の向上」を育んでいくことが目標として挙げられている。これらの達成のためには「主体的・対話的で深い学び」のある体育授業を継続して実現していくことが肝要である。そこで、本研究会では「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた体育活動の創造」を研究主題として設定することとし、①「主体的」②「対話的」③「深い学び」の3つの柱を立てて研究を進めてきた。これらの柱について工夫を講ずることで主題に迫っていくと共に、この3つの柱が切り離されたものではなく相互に影響し合うものであるということを日常の授業実践を通して深めていけるよう研究を進めることとした。

2 本年度の研究活動（研究授業）から得られた成果

- （1）オリンピックやスポーツに関するレポートを長期休業中に宿題として作成させた。また、昨今の授業づくりの視点である「個別最適な学び」という考えを踏まえて、一人一人が興味のある内容を調べさせたことが、研究の柱①「主体的な学び」につながった。レポート交流会の中で、4段階の他者評価をさせたり、他学級のレポート交流もできるように廊下掲示したりしたことが、研究の柱②「対話的な学び」の場面となっていた。
- （2）研究の柱③「深い学び」として、本時では、前時に行った他者評価で評価の高かった5名の生徒が3分程度の発表をした。その後、スポーツの文化的側面として、パリ五輪でのジェンダー問題やパラリンピアンがオリンピックに出場することの是非などを話し合わせることで、様々な視点から考えを深めることができた。また、授業の中で、Forms のアンケートを活用することで、即時的に集計して、多くの意見を共有できたことも「深い学び」に繋がる手立てとなった。



3 本年度の活動から見られた課題

生徒の発表に関して、聴いていた仲間から質問や感想を求める時間を増やしたり、さらに調べる活動やグループで話し合う活動などを組み込んだりすることで、より「深い学び」にすることができたのではないかと。教師主導ではなく、生徒が主体的に活動する時間を確保することが課題として見られた。

4 次年度への展望

- （1）今年度の臨時総会を経て変更した組織・役割分担に沿って業務を進めること。また、小樽市教育研究会、体力向上検討委員会との連携を深めながら、研究の効率化や共催等も視野に入れて取り組んでいく。
- （2）北海道学校体育研究大会への派遣は、若手教員の授業力の向上と全国的・全道的な学校体育の状況、今日的課題等を把握していくためにも重要な研修の機会である。また、令和7年度の全国大会（札幌開催）に向けても、働きかけや派遣のための環境整備を進めていく。